

関東甲信越土を考える会 冬期研修会を開催しました

2025年12月24日

関東甲信越土を考える会は12月9日(火)、栃木県芳賀郡市貝町の飯田勝市さんほ場にて、「冬の大実演会」と題した冬期研修会を開催しました。

当日は、会員をはじめ、一般参加者、農機メーカーのご担当者、事務局を含む総勢83名が参加し、盛況のうちに終了しました。



飯田勝市さん

今回の研修会は、高騰する作業機の導入をめぐり「実際の効果を理解したうえで選べたい」との声をを受けて企画したもので、前回の座学に続く実地での検証を目的としています。

とくに前回大きな関心を集めた「表層混和」技術を中心に、ほ場でその違いを体感いただく内容としました。

実演には、農機メーカー各社からに加え、会員の小泉様・菱沼様にもご提供いただき、計13種類の作業機が集結。未耕起・粗耕起(スタブルカルチ)・プラウ耕起という3条件のほ場で、性能や仕上がりの違いを比較検証できる貴重な機会となりました。

ほ場をご提供いただいた飯田さんからは、「このほ場は2011年以降代かきを行わず、2014年から乾田直播に取り組んできた。土質の違いも感じてほしい。」との説明をいただき、参加者は熱心に耳を傾けていました。

各メーカーによるトラクターの解説の後、いよいよ13機種の実演がスタート。遠方の岡山から参加された方もいるなど、今回のテーマに対する関心の高さがうかがえました。

実演後は会場をホテル東日本宇都宮に移し、情報交換会を開催しました。土壌条件の違いによる作業機選定の考え方など、現場ならではの視点を交えた活発な議論が交わされ、夜遅くまで意見交換が続く場面も見られました。

本研修会の開催にあたりご協力いただいた皆様、ご参加くださった皆様に、心より御礼申し上げます。



渡邊会長

